

Interview



町教育委員会
いわの 岩渕実 教育長

過去に学び、今を見つめ、未来を考える
全世代型平泉学への発展を

世界文化遺産登録を果たし、ここ10年、学校教育において、平泉への愛着と誇りを図るため、平泉の価値を学ぶ「幼保小中の系統的平泉学学習」を続けてきました。その内容は発達段階に応じて、先人の願いに触れ、世界遺産の価値や地域に残る遺産や伝統文化に学ぶことから、今を生きる人々の努力を知り、明日を生きる自分たちの思いも含めて全国に発信する学習と言えます。この学習は、伝統や文化に立脚した広い視野を持ち、志高く未来を創り出していくために必要な資質の能力を確実に育む教育の実現につながるものです。

少子高齢化、人口減少社会の危機感が叫ばれている現代において、町の教育大綱に掲げる「一人一人が輝き、幸せを実感できるまちの実現」を目指す当町においては、これまでの学校教育中心に取り組まれてきた平泉学学習の成果と課題を踏まえて、より広範な町民の方々積極的に関わる過去に学び、今を見つめ、未来を考える「全世代型平泉学」と発展させたいものです。それが当町にとっての持続可能な社会づくりにつながると考えます。

【表1】5年ごとの人口の推移

年次(年)	人口合計(人)	0~14歳の人口(人)
1990	9,493	1,867
1995	9,288	1,531
2000	9,054	1,243
2005	8,819	1,151
2010	8,345	989
2015	7,868	898

(参考)2018年町勢要覧・資料

地域問題を解決するために
当町の人口は2000年までは9千人を超える人口でしたが、現在では8千人を下回る状況となっています。全国と同様に、当町でも将来的な高齢化や人口減少の進行は避けられない見通しにあります。(表1参照)
また核家族化やライフスタイルの変化などにより、地域のつながりが希薄化し、高齢者の孤立化を招く、無縁社会が全国的に地域問題となっています。

そのような状況の中、人口を増やし、地域を活性化していくことは厳しいのかもしれない。しかし、自分が住んでいる町の魅力を再確認し、地域の絆を深めていくことができれば、豊かな地域づくりへとつながり、課題解決の糸口になります。

町の未来を切り開く力

人口8千人を下回る「小さな町」平泉。その小さな町には、歴史ある遺跡や文化、特産品など地域が誇る「大きな宝」がたくさんあります。しかし身近にあるからこそ当たり前に見えてきただけで、その価値には気付かず見過しがちになってしまっています。

種をまき芽が出て大切に育てることで大きな木になるように、当町では地域について学ぶことをきっかけに、子どもたちだけでなく大人たちの心の中にも「郷土愛」という意識が芽生え始めています。今は気付かなくても、10年後、20年後には町の風景や文化を懐かしみ「この町に住み続けたい」「この町に帰ってきたい」といった古里を愛する心へと成長していきます。その思いは私たちの町の未来を切り開く力となっていくはずですよ。

【特集】知れば知るほど好きになる
— 終わり —



④平泉中では、毎年3年生の修学旅行時に、東京都内において生徒自身が作成したパンフレットなどを活用して古里・平泉のアピール活動をしている／⑤今年活動を実施した東京都荒川区の日暮里駅前／⑥駅前で合唱を披露する生徒たち



①中尊寺や毛越寺で使われた古いろろうそく／②古いろろうそくを溶かし色素を混ぜ、キャンドル作りに取り組む平泉中学生たち／③完成した世界遺産キャンドル



最終章

久遠に輝く平泉の宝

平泉が誇る宝。世界文化遺産はもとより、伝統文化や伝承芸能、そして何より人材というかけがえのない宝が、今もこの地域で輝いています。

中学生が東京でアピール活動
「私たちは岩手県の平泉中学校の3年生です。古里「平泉」について紹介させてください」。4月11日、東京都荒川区の日暮里駅前を通って行く人たちに語り掛ける生徒たち。修学旅行の一環として、平泉アピール活動を行う平泉中3年生の姿です。生徒たちは緊張せず、堂々と平泉の歴史や魅力を道行く人たちに伝えていました。
またこの日のために自分たちで作成し準備してきた「世界遺産キャンドル」も配布。美しいキャンドルに込められた浄土の心、平和への思いも紹介し、受け取った人々から「きれい」「かわいい」などと喜ばれ、準備して

いたキャンドルはすぐになくなっていました。
最後に「決意」「平泉伝説」「地球の鼓動」の合唱3曲を披露し、その素晴らしい歌声に多くの人が足を止めて聞き入りました。こうして生徒たちの1時間になつた平泉アピール活動は大成功で幕を閉じました。説明を聞いた人々からは「平泉に行ってみたくなった」といった声が多く掛けられ、生徒たちの修学旅行先での活動は確実に平泉のアピールにつながっています。
これまでの中学校生活で学んだことを、知らない土地で知らない人に伝える。この経験は生徒たちにとってかけがえのない思い出になると同時に、仲間同士の絆をさらに深めています。

2018年4月11日、平泉町のホームページに1通のメールが届きました。

今後も町の取り組みに期待

山手線日暮里駅前前で平泉中学校の皆さんから、中尊寺についての丁寧な説明をしていただきました。
なかなか立ち止まってくれない都心の人(自分もそうですが)への声掛けもめげずに、若くて明るい子どもたちに触れ、久しぶりに中尊寺などへ旅に出掛けたくまりました。
皆さん一生懸命で真つすぐな瞳で説明をしてくださいました。ちょっと忙しく買い物帰りで荷物もどっさり持っていたのですが、「お荷物持ちましょうか？」など気を遣ってくれたりして。しっかり説明を聴きました。
今後も町の取り組みに期待しています。
(東京都台東区在住 Aさんより)

今までも、これからも。
知れば知るほど気になり、好きになる。
そんな魅力がこのまちにはあります。

10月22日、創造性に富んだ特色ある教育で顕著な成果を挙げた学校をたたえる時事通信社「第33回教育奨励賞」で平泉中学校が努力賞を受賞しました。
同校2年生で生徒会長の伊藤拓海さん(写真中央)は「これまでの先輩方が築いてきたことを引き継ぎながら、自分たちの代でも新たなことに取り組みたい」と話していました。

(写真)受賞を喜ぶ平泉中学生役員ら

